

国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【知識・技能】 ○拗音・長音・促音・濁音・半濁音を文字に表すと、字を間違えてしまう児童がいる。 ○思ったことや考えたことなどを文にすることが難しい児童がいる。</p>	<p>【文字を正しく覚える】 ○学習の中に視写など実際に書く活動を取り入れて、確実に表記を身に付けさせていく。 ○正しく書けるように姿勢から意識させ、書き順や文字の形を指導していく。</p> <p>【文の書き方】 ○言語表現に慣れていない児童には、書き出し文や文型を提示することによって抵抗を少なくする。</p>	
2年	<p>【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方、平仮名や片仮名を文章の中で正しく使うことが、不十分な児童が多い。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「C読むこと」は比較的できているが、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」は、個人差が大きい。「聞くこと」については、大事なところを落としてしまう児童がいる。「話すこと」「書くこと」については、経験したことを順序よく分かりやすく伝えることを苦手とする児童が見られる。</p>	<p>【言語活動の充実】 ○目的をもって話したり、書いたりする機会を意図的に設け、教師とのやりとりだけでなく、児童同士が関心をもって楽しみながら話したり聞いたり書いたりしながら、身に付けられるようにする。</p> <p>【スムーズに学習に向かえる手立て】 ○語彙を増やす活動を取り入れたり、書き方、話し方の学習を振り返ることのできる掲示物で、既習事項を生かしながら学習が進められるようにする。</p>	
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○調べて集めた情報を、項目ごとに整理して書くことが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○漢字の書き取りについて、読み方は同じだが異なる文字を書いてしまう。</p>	<p>【集めた情報を整理して書く】 ○調べて集めた情報を、文章に表す過程を丁寧に指導するとともに、具体的な例文を示す。</p> <p>【同音異義語】 ○漢字には音と意味があることを理解させるとともに、音だけでなく意味からも適切な漢字を選んで書けるようにする。</p>	
4年	<p>【知識・技能】 ○文章を書くときに、習った漢字や語句を使って書こうという意識が低い児童が多い。また、様子や行動、気持ちや性格を表す語彙が少ない。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○学習したことを踏まえて自分の考えや感想をもち、文章にまとめることができない児童が多い。授業時数が長い単元では、文章の全体が捉えきれなかったり、学習したことをすぐに忘れてしまったりする。</p>	<p>【言葉集めと掲示、助言と評価】 ○教科書の「言葉のたから箱」に言葉を足していく活動を続け、掲示をする。また、児童が書いた文章への助言と評価をすることで、児童の意欲を高める。</p> <p>【児童の理解度の把握と、単元指導計画の工夫】 ○授業の振り返りから児童の既習事項の理解度を把握し、その後の活動に生かす。単元指導計画を工夫し、全体を通しての振り返りをしっかりと行うとともに、児童が文章の全体を捉えることができるようにする。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】 ○文章の内容や構造を正確に捉えられず、筆者の主張を読み取ることが難しい児童がいる。また、読み取ったことを踏まえて自分の考えを適切に表現することについて、個人差が大きい。 ○自分の考えを文章に表す際の表現力が乏しい。</p>	<p>【例文や見本文の活用】 ○例文や見本の文を提示し、文章の構造を丁寧に確認する。</p> <p>【語彙力や表現力の向上】 ○読書の時間を確保したり、新しい言葉での例文づくりの機会を多くとったりして語彙力や表現力を向上させる。</p> <p>【家庭学習の活用】 ○週末の作文課題を活用し、定期的にまとまった量の文章を書く習慣を付ける。</p>	
6年	<p>【思考・判断・表現】 ○物語文の読み取りにおいて、人物の気持ちや筆者の意図を叙述からだけでなく、道徳のように自分の気持ちを交えて考えてしまう場面が見られる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○感想や体験などを書く際、一文が長くなり、主語と述語のつながりが正確でない文章になってしまう。</p>	<p>【細かな表現に着目した指導】 ○考えに至った根拠となる叙述に線を引き、線を引いた言葉と自分の考えとを関係付けられるようにする。</p> <p>【文章の構成や言葉のつながりを繰り返し指導】 ○書く単元の学習だけでなく、年間を通して主語述語のつながりを学習に取り入れて理解できるようにする。読書感想文や卒業文集など長い文章を書く際は、付箋を活用し、短い文を組み合わせていけるようにする。</p>	

授業改善推進プラン〈社会〉

44練馬区立立野 小学校

社会	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
3年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報の中で、何が大切で何が大切でないのか、価値付けをすることが難しい。 ○地図を見て、土地の使われ方や土地の高さなどを読み取ることが難しい。 	<p>【情報の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報を、目的に応じて取捨選択したり、順位付けをしたりすることができるようにする。 <p>【地図の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○凡例を参考に、示されているものを正しく理解するとともに、地図の便利さに気付けるようにする。 	
4年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の資料(写真や図、グラフ)を関連付けて、必要な情報を読み取り、リーフレットやワークシートにまとめることが難しい。 ○地名とその場所を覚えるだけの単調な学習になってしまう。 	<p>【資料の精選、提示の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童に読み取らせたい資料を精選し、タブレットなどを活用し、提示の仕方を工夫する。 <p>【実感を伴う理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都道府県の学習では、地図帳、ゆかりのある物などを用いて、興味関心を高める。 	
5年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の仕組みや流れが図や表で整理された資料を正しく読み取る力に課題がある。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の理解に課題があるので、社会的問題に対する解決策を正確に思考・表現することができない。 	<p>【資料活用の機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けて文章から読み取るだけでなく、図やグラフ、表などの資料からの読み取りに重点を置く学習活動を増やす。 <p>【具体的に表現をする活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りから考えたことを、理由を明らかにしながら表現する機会を多く設けるようにする。 	
6年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史上の人物名や、時代における特徴的な物品や建造物の名前を正確に書けなかったり、間違えて覚えていたりする。 ○地図帳や、統計や年表などの基礎的資料から情報を読み取り、活用することを苦手とする児童がいる。 	<p>【正確な言葉や表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○間違えやすい字や名称を大きく書いて説明したり、読み仮名を振ったりして言葉の理解を促す。 <p>【表現する機会の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料を提示し、読み取れる情報と情報を繋げた結果、考えられることを表現する機会を増やす。ICT機器を活用して多様な意見に触れられるようにする。 	

算数	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章問題を読んで加法か減法か判断できず、正しく立式できない児童がいる。 ○どちらが長い間接的に比較し、読み取ることが困難な児童が多い。 	<p>【具体物の操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブロック等を用いて具体的操作を繰り返すを行い、どのような式が正しいか判断できるようにする。 <p>【体験活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるものを用いて間接比較し、長さを比べる練習を重ねることで長さの概念を明確にする。 	
2年	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章題の文意を正しく捉え、式に直すことが難しい児童がいる。 ○板書をノートに写したりまとめたりするのに、非常に時間がかかる児童がいる。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時計の文字盤が読めない等、時刻や時間の定着が不十分な児童がいる。 	<p>【情報の視覚化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大事な数字や言葉を抜き出したり、図に表したりすることで、情報を整理して式に直しやすいようにする。 <p>【補助教材の用意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別のコース毎の実態に合わせ、穴埋め式の補助プリントに書き込ませる等の対応を行う。 <p>【知識の日常化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「今、何時何分。」「あと何分で休み時間。」等、普段の学校生活の中でも、時刻や時間を意識できるような声かけを行う。 	
3年	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を生かして、課題解決のための方法を説明したり、分かりやすく説明したりすることが難しい。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実感を持った知識として、量感が十分育っていない児童がいる。 	<p>【課題解決学習型授業の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思考を促すために課題や必要とされる既習事項を明確に提示する。考えを表現するために式、図、文章など多様な手段があることを伝える。また、発表の仕方の型を指導したり、必要に応じてICTを活用した発表を取り入れられたりする。 <p>【体験活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長さや重さに触れる活動を取り入れ、日常生活において長さや重さが意識できるような働きかけを行う。 	
4年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位換算など大きな数や小数の仕組みを問われる問題になると、うまく捉えきれず操作が困難になることがある。 ○分度器の使い方が定着していなかったり、角度の量感が育っておらず計測した角度の間違いに気付かない児童がいたりする。 	<p>【順を追って数の仕組みを操作する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例えば100gは何kgかという問いは1kg=1000gをもとにして位取りがどう移るのかを順を追って導くようにさせる。暗記に頼らないように論理的に答えを出すようにさせる。 <p>【直角の概念の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○直角、90度を基準に角度の大小を考えさせる。 	
5年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わり算に苦手意識をもっている児童がいる。そのため、割合の学習などわり算が必要とされる学習に支障が出ている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○変化する2つの量が文章の中に出てくると、どの数字をつかってどのような式にすべきか迷ってしまう。 	<p>【計画的な練習と個別の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿題の中に計算練習を盛り込んだり、授業でミニテストを実施したりして、指導と経過を把握する機会を設定していく。 <p>【数直線の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み取った数を数直線に表し、それぞれの量の関係を視覚的に捉え、正しい式に結び付けるようにする。 	
6年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分数の計算に苦手意識をもっている児童がいる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○変化する2つの量が文章の中に出てくると、どの数字をつかってどのような式にすべきか迷ってしまう。 ○既習事項を生かして、課題解決のための方法を説明したり、分かりやすく説明したりすることが難しい。 	<p>【計画的な練習と個別の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿題の中に計算練習を盛り込んだり、授業でミニテストを実施したりして、指導と経過を把握する機会を設定していく。 <p>【表現力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○解決に至るための道筋を丁寧に表現することの重要性を伝え、式、図、数直線、文章など様々な手段を提示する。 ○必要に応じてICTの活用を促す。 ○伝え合う場を意図的に設定する。 	

授業改善推進プラン<生活科>

44練馬区立立野 小学校

生活	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「アサガオの観察」や「きせつとなかよし はる なつ」では、成長に対して気付いたことや草花・生き物の様子について言葉で表すことに個人差がある。</p>	<p>【表現の工夫】</p> <p>○国語の「おおきくなった」と関連させながら、観察の観点を確認したり、書き方を確認したりすることにより、言葉で表す語句を増やす。</p> <p>○絵や図を中心にまとめたものから、書いた文章を分かりやすく相手に伝えたり、発表したりする場を設ける。</p>	
2年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○感染症対策で、学校探検や町探検が例年通りの形で行えないため、自分自身の成長や地域についての気付き、上級生としての意識、地域について知ろうとする意欲をもちにくい。</p>	<p>【意欲、気付き】</p> <p>○町探検で、密にならない工夫をしつつ、地域の方々へのインタビューを取り入れた学習を行う等、地域との交流機会を意図的に設ける。</p> <p>○気付いたことや考えたことを、多様な方法で交流し、振り返る機会を設ける。その際、タブレット等のICT機器を活用し、気付きの質が高まるようにする。</p>	

理科	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○実験に対する意欲が高い児童が多いが、根拠のある予想や仮説を立てたり、結果から分かることを自分の言葉でまとめたりすることは難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○動植物を一生懸命に観察カードに描いている児童が多いが、観察の視点が定まっていない児童がいる。</p>	<p>【課題解決の手順】 ○実験において、課題→方法→予想→検証→結果→考察という課題解決の手順を定着させ、見通しをもって臨めるようにする。</p> <p>【観察の視点】 ○観察において、比較したり関係付けたりするなど、的確な視点で考えを広げている児童の意見を紹介し、学級全体で共有する。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○実験、観察に対する意欲は高い児童が多い。ただ、実験器具の扱い方、実験や観察したことから結果を整理し考察することに課題がある児童がいる。</p>	<p>【視覚的理解できる環境】 ○学習の流れが分かる板書とノート指導を行うとともに、結果と考察の違いを意識させ、科学的思考を伸ばすようにする。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】 ○実験、観察に対する意欲は高い児童が多く、根拠のある予想や仮説を立てることができる。しかし、結果から分かる科学的な性質や規則性について自分の言葉でまとめられる児童は少ない。</p>	<p>【課題解決の活動】 ○問題→予想→計画→検証(実験・観察)→結果→考察という問題解決の流れを定着させ、見通しをもって実験、観察が行えるようにする。</p> <p>【見方・考え方の共有】 ○実験後、結果を基に近くにいる児童同士で話し合ったり、比較したり関係付けたりして考えをまとめ、その後学級全体で共有する。</p>	
6年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○継続している単元だと、何を明らかにするための実験や観察なのかを忘れてしまう児童が複数いる。</p> <p>【知識・技能】 ○実験や観察したことの結果と考察の区別がつかない児童が3~4割いる。</p>	<p>【課題把握から考察、まとめの学習の流れ】 ○予想を日常生活から考えて印象付けたり、実験を自分で考えて計画できるようにする。</p> <p>【ノート指導の充実】 ○結果と考察の区別をつけるために、実験の説明をした後、結果までの時間を設定する。その後、結果を全体で共有し、問題を確認してから考察を書くようにする。</p>	

授業改善推進プラン<音楽>

44練馬区立立野 小学校

音楽	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【知識・技能】 ○鍵盤ハーモニカを使うことができないため、鍵盤演奏を経験することができない。演奏技術を習得することができない。 ○キーボードの技術にかなりの個人差がある。</p>	<p>【技術の習得】 まずはキーボードでの演奏経験を積ませ、リズムや皆で合わせて演奏することの楽しさを経験させる。指導者がオルガンを弾き、音を確認してシミュレーションする。また、基本的なことから行い、遅れる児童が出てこないよう注意して指導する。</p>	
2年	<p>【知識・技能】 ○鍵盤ハーモニカの音の位置が分からない児童が多い。 【思考・判断・表現】 ○周りの音やリズムに合わせられない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○タブレットやデジタル教科書の画面を見ながらシミュレーションをし、音階構造や運指を理解できるようにする。 【アンサンブルの習得】 ○曲に合わせて、打楽器等を用いたリズム活動を常時行い、ハーモニー感・拍子感・リズム感の習得を目指す。</p>	
3年	<p>【知識・技能】 ○コロナ感染の影響でリコーダー、鍵盤ハーモニカを使うことができない。 ○児童のキーボードの技術に差がある。 【思考・判断・表現】 ○たたくリズムと音符の連動的理解ができない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○ミニキーボードを導入し、タブレットに教師の見本画像・動画を載せ、ミレーションし、運指などの技能の習得を目指す。 ○キーボードテクニック向上のプログラムを開発していく。 【リズム・音符の連携】 ○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p>	
4年	<p>【知識・技能】 ○コロナ感染の影響でリコーダー、鍵盤ハーモニカを使うことができない。 ○児童のキーボードの技術力が低い。 【思考・判断・表現】 ○リズムと音符の連動性を理解ができない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】 ○ミニキーボードを導入し、タブレットに教師の見本画像・動画を載せ、ミレーションし、運指などの技能の習得を目指す。 ○キーボードテクニック向上のプログラムを開発し、技能面を高めていく。 【リズム・音符の連携】 ○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p>	
5年	<p>【知識・技能】 ○コロナ感染の影響でリコーダー、鍵盤ハーモニカを使うことができない。 ○個人の練習技能を効率よくしたい。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○音楽を聴いたり楽器を演奏したりする経験が少ない児童に如何に習得させるか。</p>	<p>【技能の習得】 ○ミニキーボードを導入し、タブレットでシミュレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。 ○合奏練習時、タブレットに各パートの見本演奏を収録しデータを自ら使い練習の支援とする。 【音楽用語の習得】 ○タブレットで連動し分かりやすい習得を目指す。</p>	
6年	<p>【知識・技能】 ○コロナ感染の影響でリコーダー、鍵盤ハーモニカを使うことができない。 ○個人技能の練習時間が取れない。 【思考・判断・表現】 ○共通教材など歌詞が今の児童にはイメージがしにくく、演奏に自分のイメージが持てない児童がいる。</p>	<p>【技能の習得】 ○ミニキーボードを導入し、タブレットでシミュレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。○合奏練習時、タブレットに各パートの見本演奏を収録しそれを使い練習の支援とする。 【イメージ化】 ○タブレットに歌詞と画像・動画を連携させイメージ化しやすくして曲の理解に役立たせる。</p>	

授業改善推進プラン<図画工作>

44練馬区立立野 小学校

図工	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【思考・判断・表現】 ○発想や表現を広げることが難しく、表現の幅が狭く偏りがちである。</p>	<p>【多様な表現活動】 ○様々な表現方法を体験させ、表現する楽しさを感じさせる。</p> <p>【造形遊び】 ○紙や粘土、木片などを使って行う造形遊びの活動を取り入れ、材料や場所から自分なりのイメージや表現を広げることができるようにする。</p>	
2年	<p>【知識・技能】 ○使用経験が少なく、絵の具や筆、接着剤などの道具の扱い方に不慣れな児童が多い。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○作品作りを行う際に、自分の思いをどのように表現したらよいのか悩んだり教師の手本に引っ張られてしまったりする児童がいる。</p>	<p>【個に応じた指導】 ○道具の使用法や注意点について、実物投影機等を使い、教師が実際に行いながら示す。また、苦手意識が強い児童には、教師と一緒に使ってみながら安心して行えるようにする。</p> <p>【指導方法の工夫】 ○導入部で絵本の読み聞かせや言葉集めを行い、作品のイメージを膨らませやすくする。また、題材に合わせた材料を複数用意し、選択して作品作りを行えるようにする。</p>	
3年	<p>【知識・技能】 ○道具や材料を自分の表現したいものに合わせることが難しい。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○発想を広げて、材料などを工夫して組み合わせたり、イメージを広げて新たな表現につなげることが難しい。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○用具や道具を扱う時は、実物投影機やICT機器を活用して視覚的にも分かりやすい指導をお困っていく。</p> <p>○タブレットを用いて自然や風景など、作品のイメージを広げるものを共有したり、個別に調べたりして多様な表現を生み出していけるようにする。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○自分の表したいものには意欲的に工夫を凝らして表現することができるが、友達のよい表現を認め、自分の表現と比べたり、生かしたりすることが十分ではない。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○ICT機器や鑑賞カードを工夫して使い、鑑賞の時間を毎時間の授業の中で取り入れる。</p> <p>○自分や友達の作品を鑑賞する時には見る視点を与え、作品を通して表現の違いや良さを学ぶ機会をつくる。</p>	
5年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○自分の表現に自信がもてず、材料や道具を自分で考えて工夫して扱い、試行錯誤することに苦手さを感じている。</p> <p>【知識・技能】 ○道具や用具をねらいに合わせて扱うことができないために、自分の思いを表現することができない児童がいる。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○多様な材料や道具を使用する作品作りに児童が主体的に取り組める題材を設定する。</p> <p>○ICTなどを取り入れて視覚的にも分かりやすい鑑賞活動を行い、児童がお互いに学び合い認め合うことができるようにする。</p> <p>【活動形態の工夫】 ○同じ道具や用具を系統性を持たせて繰り返し使うことができるように年間計画を工夫する。</p> <p>○ペアで行う活動を取り入れ、お互いに学び合い理解してから活動を進めるようにしていく。</p>	
6年	<p>【思考・判断・表現】 ○作りたいものに合わせ、材料や道具を使い分けたり、友達の作品を鑑賞したりすることで、自分の表現を深めていくことが苦手な児童が多い。</p> <p>【知識・技能】 ○基本的な技能や知識が身につけていないため、材料や道具を上手く扱うことができず、自分の力で表現することが難しい。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○導入時に材料や道具の扱い方をICT機器を使って繰り返し指導し、知識や技能の定着を図っていく。</p> <p>【鑑賞活動の充実】 ○鑑賞のねらいを明確にし、ICT機器を使って、深まりのある表現を視覚的に示していく。</p> <p>○制作中に工夫しているところを映像で記録し、クラスで共有して友達のよい表現を伝えていく。</p>	

授業改善推進プラン<家庭科>

44練馬区立立野 小学校

家庭	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校での調理実習ができない中、調理を家庭でやっている子とそうでない子の差があり、個人差が大きくなりつつある。 ○裁縫においては、様々な縫い方を学習したが、さらなる習熟が必要である。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活から課題を見付けることや、学んだことを日常生活に生かすことが十分でない。 	<p>【実践的・体験的な活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を丁寧におさえてから、実習に備えていく。 ○体験・実習の機会を増やす。 <p>【日常生活との関連付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活、学校生活の中で学んだことを生かせる場を意識したり、意図的に設定したりして日常につなげていく。 	
6年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味関心のあるないによって学習への積極性が顕著である。 ○学校での調理実習ができない中、調理を家庭でやっている子とそうでない子の差があり、個人差が大きくなりつつある。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経験の差からか、個人差が大きい。 	<p>【実践的・体験的な活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境づくりや制作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりできるように授業を工夫し、生活をよりよくしようとする意欲関心を高める。 <p>【日常生活との関連付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身に付けた知識や技能などを日常生活に生かせるよう、家庭に呼び掛ける。 	

体育	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○活動に意欲的な児童が多い一方で、自分が楽しむことを優先し、規則を守れない児童がいる。</p> <p>○友達に対して強い口調になったり、乱暴な言動が見られたりする児童がいる。</p>	<p>【規則の確認と認め合い】</p> <p>○単元の導入で、運動の規則を確認・質問する時間を設ける。また、活動の終わりに振り返りを行い、友達の良いところを認め合う時間を設ける。</p> <p>【言葉掛けの仕方】</p> <p>○自分の身に置き換えて考えたり、相手の気持ちを想像したりすることでどのような言葉を掛けたらよいか考えさせる。</p>	
2年	<p>【知識・技能】</p> <p>○コロナ禍により、運動経験が減少し、様々な運動遊びにおいて、体の動きがぎこちなかったり苦手意識をもっていたりする児童が目立つ。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○運動遊びやゲームの場面において、友達と仲良く行ったり勝敗を受け入れたりすることが難しい児童がいる。</p>	<p>【運動経験の活性化】</p> <p>○十分な運動量を確保し、多様な動きを取り入れて、基本的な技能や運動意欲を高める。手本を示したりお互いに気付いたことを発表させたりして、よりよい動きを身に付けられるようにする。</p> <p>【振り返りでの価値付け】</p> <p>○友達と声を掛け合ったり相手チームに拍手を送ったりする児童の姿を見逃さず、振り返りの場面で価値付けを行うようにする。</p>	
3年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○コロナ禍により、室内で遊ぶことが多く、すすんで運動したり、運動する楽しさを感じたりすることができない児童がいる。</p> <p>○ゲームの勝敗を受け入れられず、やる気をなくしたり、相手に乱暴な言葉を発したりする児童がいる。</p>	<p>【運動することの価値付け】</p> <p>○運動することが体に良い影響を与えることを伝えるとともに、他者との比較以上に運動ができた達成感を大切にさせる。</p> <p>【チーム分けと振り返り】</p> <p>○力が公平になるようにチーム分けを考える。振り返りで、作戦が成功したことを取り上げたり、気持ちの良い言葉掛けを発表させたりする。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○運動を楽しんではいるが、チーム力や技能向上に向けた問題解決や表現力が十分でない。</p> <p>○コロナ禍により、グループで話し合う時間を制限しているため、決まった時間の中で自分の考えを的確に伝える力の差が大きくなっている。</p>	<p>【学習過程の一貫性と課題設定】</p> <p>○毎時間の学習のねらいを明確にし、めあてと振り返りに一貫性をもたせる。児童の実態に合わせて、解決したいと思えるような課題や規則を設定する。</p> <p>【対話的な活動】</p> <p>○ワークシートを活用し、短い時間でも対話的な活動ができるようにする。また、作戦タイムを教室で行ってから校庭に出るなどの工夫を行う。</p>	
5年	<p>【知識・技能】</p> <p>○運動の特性に応じて、体をどのように動かせばよいのか、実際の自分の動きはどうなっているのかを自身で把握できていないので、課題を解決することが難しい児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○運動を楽しんではいるが、チーム力や技能向上に向けた問題解決や表現力が十分でない。</p>	<p>【協働的な活動とICT機器の活用】</p> <p>○友達同士で見合ったり、教え合ったりする活動を積極的に取り入れる。また、タブレット端末を活用し、動きを動画に撮ることで自分の体の動きを客観的に捉え、課題解決につなげられるようにする。</p> <p>【学習過程の一貫性と方向性】</p> <p>○毎時間の学習のねらいを明確にし、めあてと振り返りに一貫性をもたせる。上手く表現できている児童を例に挙げ、どのようなポイントを意識して学習に臨めばいいのか方向性を示す。</p>	
6年	<p>【知識・技能】</p> <p>○運動についての知識はあっても、それを実際の運動の場面で生かすことが難しい児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○考えを共有する時間を設けてはいるが、一部の児童の思考に偏ってしまい、多くの児童の意見を共有するまでには至っていない。</p>	<p>【基礎的技術の向上】</p> <p>○基礎的な技能を身に付けるための運動を継続的に行い、実感を伴って知識と技能とが結び付くように支援する。</p> <p>【意見交流の工夫】</p> <p>○ワークシートでの振り返りに加えて、ICT機器を活用してお互いの考えを伝え合ったり、アンケートを基にゲームの規則を設定・改善したりする。</p>	

授業改善推進プラン〈外国語〉

44練馬区立立野 小学校

外国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【知識・技能】(書くこと) ○大文字や小文字を区別してアルファベットを書いたり、文章を書く際単語と単語の間をあけたりするといった基本的な決まりが定着していない。</p> <p>【知識・技能】(話すこと) ○積極的にALTと関わったり、英語で相手に伝えたりしようとする意欲に個人差がある。</p>	<p>【授業や家庭学習での定着】 ○授業の中で短い時間でも書く活動を取り入れるとともに、ペンマンシップのような4線のあるものにかかせるようにする。また、家庭学習でも単語練習などを積極的に取り入れていく。</p> <p>【ALTの効果的な活用】 ○ALTの発音を手本として繰り返し単語の練習をしたり、難しい発音の単語をピックアップしてゲームに取り入れたりしながら児童の苦手意識を解消していく。</p>	
6年	<p>【知識・技能】(話すこと[やり取り]) ○簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をすることが難しい。</p> <p>【知識・技能】(書くこと) ○身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すことが難しい。</p>	<p>【単元をひとまとまりと考えた学習計画】 ○単元を通して何度もやり取りで求められる語句を児童に慣れ親しませるために、授業ごとにいつも単元で使用する語句を聞かせていく。</p> <p>【文字指導の工夫】 ○ワークシートで使用するフォントをUDデザインのものにする。また、よく見て書けるようにするため、文字抜け単語などのクイズを行い、楽しみながら繰り返し書く活動を行う。</p>	